

# アメリカのリベラルアーツ・カレッジの現況

長野 公則

## 1.背景と目的

リベラルアーツ・カレッジの存在は、アメリカの高等教育の特色の一つである。学生数は全学で2千名前後と少人数で、学士課程教育に重点が置かれている。大学院はあっても小規模である。学生と教員との人数の比率は8対1前後で、学生と教員の密接な交流が可能である。学士課程教育の成果とそれを生み出す諸要素に関する研究の中心の一つである Wabash College のリベラルアーツセンターは、リベラルアーツ教育を支えるために不可欠な3要素を次のように定義している (Blaich et al., 2004)。

(1) 職業技術よりも知的教養の開発により大きな価値を置くことについて大学全体のエトスと伝統が存在すること。(2) 学生の知的経験において、カリキュラムとキャンパス環境の構造が相互に関連して首尾一貫性と統合性を有していること。(3) 「学生と学生」、「学生と教員」の教室内外での相互研鑽に強い価値を置くことについて大学全体のエトスと伝統が存在すること。

リベラルアーツ・カレッジの伝統的特色は、「知的な探求」、「独立した思考力」、「学際的アプローチ」といった探究的な知的姿勢の育成に力点を置く点である。「就職に有利である」、「特定のスキルや資格が獲得できる」といった観点の対極に位置するものといえよう。

今世紀に入って、工学、経営、教育、看護等の多種多様な学位、就職に有利な資格等を提供する総合大学との競争は厳しさを増しており、リベラルアーツ・カレッジにも新しい時代に適合した新たな取り組みが求められつつある。本発表の目的は、21世紀の最初の20年を経過した現在、アメリカのトップランクのリベラルアーツ・カレッジの財務面、教育面の現状を明らかにすることである。

## 2.先行研究

Breneman(1994)は、アメリカのリベラルアーツ・カレッジの特色を教育理念と経済類型の観点から整理している。教育の観点から見れば、リベラルアーツ・カレッジは、学士号を授与し、寄宿制を持ち、本来18歳から24歳のフルタイム学生が在学し、かつ専攻科目の範囲を芸術、人文科学、言語、社会科学、自然科学における大体20から24の分野に限定する。学生数は大半が800から1,800のあいだである。多くの学生が卒業すると大学院か専門職大学院に進むが、これらのカレッジは、当世の学生たちの就職市場に対する気がかりにおもねることのないカリキュラムを提供し、それで生き延びようと苦闘していると述べている。また経済類型の観点から Breneman は、1980年代のリベラルアーツ・カレッジをエンダウメント(基本財産以下エンダウメント)の額、純授業料、志願者の合格率という3要素で10のグループにランキングし、上位2割のカレッジは繁栄しているようであり、一方で下位2割の中のいくらかが危機状態にあると展望している。

本発表では、上記先行研究と同様に財務面と教育面の双方に焦点を当て、トップランクのリベラルアーツ・カレッジの財務面の現状、教育面の新しい取り組みを探求する。

## 3.研究方法

21世紀初頭(2001年)のエンダウメントの時価総額が8億ドル以上の伝統校5大学を事例としてとりあげる(表1)。各事例カレッジの年次報告書、財務資料、ウェブページ等の分析を行う。

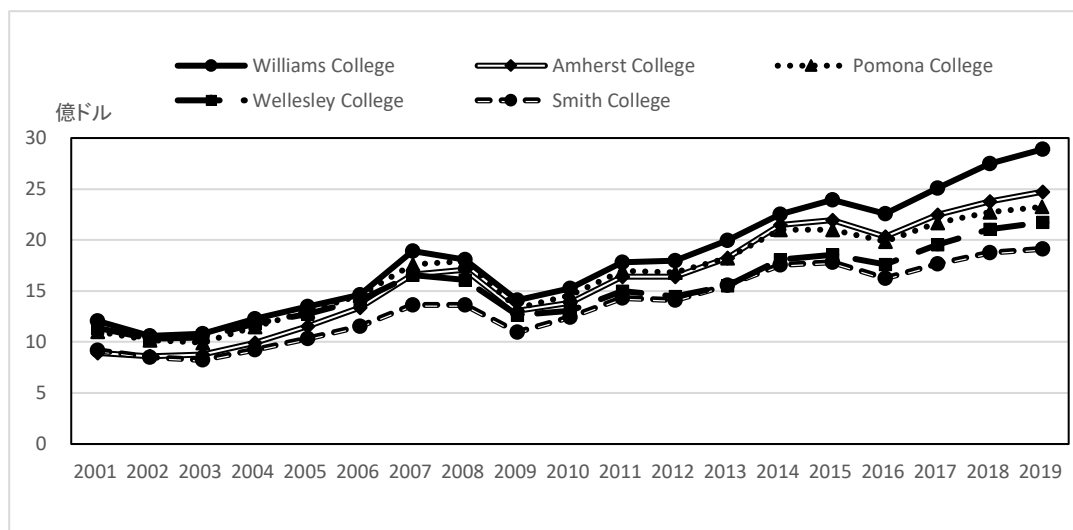
表1 事例カレッジの概要

	大学名	学生数 (2018)	設立年	所在地
1	ウィリアムズ・カレッジ (Williams College)	2,092	1793	Williams Town, MA
2	アマーフト・カレッジ (Amherst College)	1,856	1821	Amherst, MA
3	ポモナ・カレッジ (Pomona College)	1,564	1887	Claremont, CA
4	ウエルズリー・カレッジ (Wellesley College)	2,383	1870	Wellesley, MA
5	スミス・カレッジ (Smith College)	2,891	1871	Northampton, MA

出典：各事例カレッジの年次報告書、NACUBO Endowment Study から筆者作成

#### 4.リベラルアーツ・カレッジのエンダウメントの成長と収入構造の現状

2001年から2019年までの19年間に、事例5カレッジのエンダウメントは順調に拡大した。過去から受け継いだエンダウメントを市場で運用し、新しい寄付金収入等で増やすことによって、いずれも2008年のリーマンショック不況を乗り越えて過去最高の水準に達している（図1）。



出典：NACUBO Endowment Study 2001～2019 から筆者作成

図1 事例5カレッジのエンダウメントの成長（2001年から2019年）

毎年の教育・研究等の経費としての使用分を賅ったうえで、エンダウメントの総額の年平均成長率は、アマースト(5.8%)、ウィリアムズ(5.0%)、ポモナ(4.2%)、スミス(4.2%)、ウエルズリー(3.7%)を記録している。こうしたエンダウメントの過去からの蓄積の更なる成長の結果として、毎年の予算における収入構造もエンダウメントからの収入が重要度を増しつつある。2019年度の収入構造の特色は以下の通りである。エンダウメントからの配分収入が総収入に占める比率は、ウィリアムズ(47%)、アマースト(51%)、ポモナ(47%)で、これらの3カレッジでは、学生納付金収入を上回る最大の収入源の位置を占めている。ウエルズリー(38%)、スミス(37%)でも学生納付金収入に次ぐ2番目の収入源となっている。なお、学生納付金収入が総収入に占める比率は、ウィリアムズ(33%)、アマースト(31%)、ポモナ(32%)、ウエルズリー(41%)、スミス(45%)である。エンダウメントからの配分収入と学生納付金収入を中心とした潤沢な財源で、大学独自奨学金の充実、学生教員比率の維持、体験学修の充実を図ることができる環境にある。

#### 5.リベラルアーツ・カレッジにおける最近の特色ある取り組み

潤沢な財源を背景とし、事例大学では新しい環境に適合すべく以下のような取り組みに力を入れている。以下に最新の取り組みを要約する。

ウィリアムズでは、学位要件の中に、体験学習的な取り組みが組み込まれている。多様性や社会改革等をテーマに学修するDPE(Difference, Power, Equity)科目やこれまでと劇的に異なった体験をすることを目指すウインターコース等がある。アマーストでは、カリキュラムと課外活動の両方で体験学習の機会を提供している。総称してExperimental Learningと呼んでいる。学士課程研究、研究室体験とフィールド体験、コミュニティーワーク、海外実習、インターンシップ、独立研究、学生組織への参加等を具体的活動として含む。ポモナでも同様に、特別プログラムと機会(Special Programs & Opportunities)として様々な体験学習を提供する。学士課程研究、海外実習、インターンシップ、専門職大学院での履修への準備、模擬国連等がある。

ウエルズリーでは、高校生向けに大学初年次の授業をオンラインで提供する試みを行っている。アメリカの高等教育営利団体であるカレッジボードの認定を受けた「Advances Program イタリア語」では、双方向体験学習機会を通じて高い語学力と実践的知識が提供される。同時にカレッジボードが主催するイタリア語レベル試験の準備として役立つ。

スミスでは、伝統的な人文学、社会科学、自然科学、言語学等のリベラルアーツ教育に加えて、工学教育に力

を入れている。女子大学の全国平均（20％）の倍に当たる約40％の学生が、科学技術・工学・数学系を意味するSTEM（STEM science, technology, engineering, mathematics の頭文字を連ねた造語）を専攻する。今後開花することが期待される分野として、統計学、オペレーションズリサーチ、バイオ関連数学、情報科学を挙げている。同大学にはイノベーションセンターがあり、起業、技術開発、資金調達に挑む女性が複雑な社会に適合する際のパイプラインを創造することをミッションとしている。

## 6.時代の要請とリベラル教育

本発表の目的は、21世紀の最初の約20年間を経過した現在、トップランクのリベラルアーツ・カレッジ5校の財務面、教育面の現状を明らかにすることであった。8対1前後の学生教員比率を維持し、伝統的リベラル教育と社会適合性を維持することは、固定費である教員人件費負担が大きく、財務的には持続困難に直面するリスクを常に内包している。しかし、今回事例としたトップランクのリベラルアーツ・カレッジで見る限りでは、高いエンダウメントの成長と高授業料・高奨学金政策に支えられ、財務的には質を支える強さが確保されている。高等教育に求められる質は、時代の要請に沿って変化する。従ってAI(人工知能)、生命科学、環境問題などこれからの時代の変化に対応して、リベラル教育も変化を求められつつある。学士課程教育面では、伝統的なリベラルアーツ教育を維持しつつ、様々な体験学修、特別プログラム、オンライン授業、STEM専攻等の充実を図り、質の更なる向上に向けた試みがなされている。

### 【参考文献】

- 絹川正吉（2005）「リベラルアーツ教育と学士学位プログラム」日本高等教育学会編『高等教育研究』第8集、玉川大学出版部、7-27頁。
- 長野公則（2019）『アメリカの大学の豊かさと強さのメカニズム：基本財産（エンダウメント）の歴史、運用と教育へのインパクト』東信堂
- 長野公則（2020）「ディスカバリー・ラーニング（発見学修）－UCバークレー学士課程教育の試みを中心に－」日本国際教養学会『JAILA JOURNAL』第6号、46 - 57頁
- 福留東土（2010）「1980年代以降の米国における学士課程カリキュラムを巡る議論」『大学論集』第42集、広島大学高等教育開発センター、39 - 52頁。
- 吉田文（2005）「アメリカの学士課程カリキュラムの構造と機能－日本との比較分析の視点から－」日本高等教育学会編『高等教育研究』第8集、玉川大学出版部、71-93頁。
- Blaich, C.F., Bost, A., Chan, E., and Lynch, R., 2004, Defining Liberal Arts Education, Center of inquiry of liberal arts, Wabash College.
- Breneman, D. W. (1994). Liberal Arts Colleges Thriving, Surviving, or Endangered. Washington D.C.: The Brookings Institution.
- Hartley, S. (2017). The Fuzzy and the Techie Why the Liberal Arts Will Rule the Digital World Boston・New York Houghton Mifflin Harcourt
- NACUBO, NACUBO Endowment Study 2001～2019
- Rothblatt, S. (2016), “Old Wine in New Bottles, or New Wine in Old Bottles? The Humanities and Liberal Education in Today’s Universities” A New Deal For the Humanities Liberal Arts and the Future of Public Higher Education edited by Gordon Hunter and Feisal G. Mohamed, pp.31-50

### 【財務報告書】

- Amherst College, Statement of Activities Year Ended June 30, 2019
- Pomona College, Statement of Activities Year Ended June 30, 2019
- Smith College, Consolidated Statement of Activities Year ended June 30, 2019
- Wellesley College, Statement of Activities Year Ended June 30, 2019
- Williams College, Consolidated Statement of Activities Year ended June 30, 2019

### 【ウェブサイト】<>内はアクセス日

- <http://www.aherst.edu/academiclife><2021年2月16日>
- <http://catalog.pomona.edu><2021年2月16日>
- <http://www.smith.edu/academics><2021年2月25日>
- <http://www.wellesley.edu/academics><2021年2月16日>
- <http://catalog.william.edu/degree-requirements> <2021年2月16日>